

上越地域米の品質・収量確保に向け栽培管理を徹底しよう！

1 稲の生育状況と今後の水管理

(1) 稲の生育状況

- 管内の田植始期は5月7日頃、最盛期は5月16日頃となり、ほぼ平年並となった。
- 田植期間は寒暖の差が大きく風の強い日もあったことから、活着・初期生育にはほ場間差が見られる。

(2) 今後の水管理

- 活着後は水温を上昇させるため水深2～3cmの浅水管理とし、分けつの発生を促して良質茎の早期確保に努める。
- 低温や風の強い日はやや深水管理にし、田面が出ないように湛水を徹底する。
- ワキの発生が多いほ場では夜間落水を行い、根腐れ・生育停滞を防止する。

2 中干し・溝切りの実施方法

(1) 主な効果

- ◆ 過剰生育抑制による適正生育量の確保
- ◆ 下位節間の伸長を抑え、倒伏を軽減
- ◆ 土壌への酸素供給による根の健全化
- ◆ 収穫作業に向けた地耐力の確保
- ◆ 溝の設置により迅速なかん水・落水が可能

適正な粒数確保 (= 品質の確保) につながる！！

(2) 実施時期 ～ 田植後25日をめやすに生育を確認し、遅れないよう中干しを開始 ～

- 目標穂数の7～8割の茎数（生育過剰ほ場は6～7割）を確保したら落水し、中干しを開始する。
- 本格的に梅雨入りすると中干し効果が劣る。極端に分けつの発生が遅れていなければ、早めでも中干しを開始する。

表 コシヒカリの中干し開始のめやす

地域	1株当たり茎数のめやす(本/株)			目標穂数 (本/㎡)	開始時期 のめやす
	50株植え	60株植え	70株植え		
平坦地	18	15	—	360	6月10日頃
中山間地	—	14	12	320	6月15日頃



【田面に小ヒビが入った状態】



【溝の末端を排水口に接続した状態】

(3) 実施方法

〈中干し〉

- 程度：田面に小さなヒビ(幅1cm程度)が入り、軽く足跡がつく程度までしっかり行う。
- 終了時期：出穂1か月前（早生は6月末頃、コシヒカリは7月5日頃）をめどに終了する。

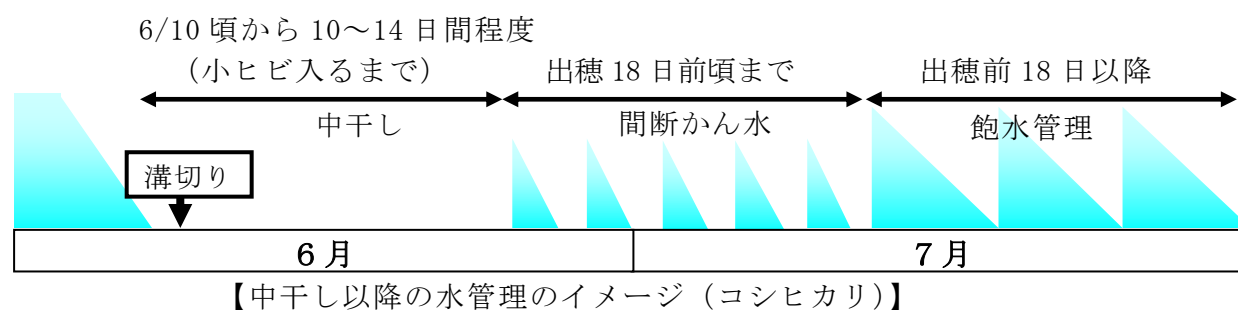
〈溝切り〉

- 溝の間隔：8～10条おき（間隔は2.5m程度）
- 溝の深さ：10cm以上とし各溝の末端を排水口につなげる。

3 中干し・溝切り後の栽培管理

(1) 水管理

- 中干し終了後は、うわ根の発根促進や根の健全化のため湛水状態を維持せず、浅水の間断かん水を実施し、徐々に飽水管理に移行する。



【飽水管理のめやす】

(2) 病虫害防除

- いもち病多発地や前年発生ほ場のコシヒカリ BLなどで田植時に予防粒剤を施用していない場合は、6月中旬までに本田に予防粒剤を散布する。
- また、農道・畦畔などがカメムシ類の生息地となるので草刈りを徹底する。